

## 編集後記

初夏の候、会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

『日本學刊』は1997年の創刊当時より、香港のみならず、海外各国・地域における日本語教育、日本研究、日本に興味をお持ちの方々と交流及び発表の場の創出を目指してまいりました。

2021年も2020年と同様に新型コロナウイルス感染予防によって様々な制約を強いられた年でありました。にもかかわらず、皆様方の多大なご支援のおかげをもちまして、2022年に『日本學刊』の第二十五号を刊行できましたこと心底から謝意を表したいと思います。

今号において、中国、日本、台湾からご投稿を賜りましたことは嬉しい限りでございます。その内容は多岐にわたり、日中文学を比較研究された『金雲翹伝』と翻案作『風俗金魚伝』に対する考察——「佳人」の恋に見る受容と変容」をはじめ、学習者調査の「日本語学習者の興味と学習動機の変容—香港の高校生のライフストーリーより—」、日本語の「接続詞として用いられる「なので」の意味機能への再考察—語用論的観点に基づいて—」の研究、そして「非日本語学科の台湾人日本語学習者の語彙学習について」と「インストラクショナル・デザインの視点からのCA日本語教科書分析—台湾 C 航空会社の日本語教科書を中心に—」の台湾の日本語教育についての研究分析があります。

皆様方の玉稿が多彩多様で、いずれも非常に興味深い、啓発的で力を与えてくださり、参考になる研究と報告です。今後も、『日本學刊』が皆様方にこのように交流の場として貢献できれば幸いと思っております。

なお、この場をお借りして、第二十五号の編集委員と査読を務めてくださいました皆様方に御礼を申し上げます。今後とも引き続きよろしく願いいたします。

最後になりますが、皆様方のご健康とご多幸を祈念し、新型コロナウイルスを乗り越え、今年こそ感染が終息するよう心より期待いたしております。さらに、世界中が再び平和で、オンラインだけではなく、皆様方と同じ時間に同じ空間を共有できる対面交流可能な時が早く迎えられるように心からお祈り申し上げます。

皆様方のご投稿を心からお待ちいたしております。

日本学刊編集委員会委員長

梁 安玉

2022年6月吉日